

一つの火種で

広報

しょうぼう さつま

119

vol.23

主な内容

- ・特集 地震関連(地震対策など)
- ・住宅用火災警報器の維持管理
- ・職員紹介(新規採用・気管挿管認定)
- ・消太くんの消防一口メモ
- ・火災調査ファイル
- ・消防団再編
- ・救急関連(普通救命講習, 熱中症)
- ・防火ポスターコンクール入賞者決定
- ・消防ほっと写真館

多くの被害

地震

その時、あなたはどう?

平成28年4月14日午後9時26分頃、熊本県熊本地方の深さ10kmを震源とするマグニチュード6.5（最大震度7）の『熊本地震』が発生し、さつま町でも震度4の強い揺れを観測しました。
この地震により、熊本県内では多数の死傷者が発生し、九州各地で家屋や土地にも甚大な被害をもたらしました。



熊本県益城町の被災写真
(鹿児島県緊急消防援助隊 救急小隊 さつま町消防本部撮影)

九州地方では余震が続いており、被災した住民の方々は今もなお避難生活を余儀なくされています。

さつま町でも、平成9年3月と5月に、『鹿児島県北西部地震』により震度5強の強い揺れを経験しました。

あれから19年...
時間と共に薄れゆく記憶...

いつ起こるか分からない地震に備え、今回の地震災害を機に、その対策と心構えについて考えてみましょう。

「では、何をすればいいの?」



まず、1つめに地震が発生する前にできることがあります。

① 家族での防災会議

- 地震に対する知識と教養を培う。
- 発生時に身を守る方法や時間帯、家族の在不在時の対応など、様々なケースを想定する。
- 居住地域の避難場所や避難経路を確認する。
- 家族との連絡方法を確認する。



② 建物内外の安全対策

- 避難通路の確保(通路や出入口などの整理整頓)
- 家具等の転倒、移動、落下防止対策(固定金具や突っ張り棒などの器具取り付け)



③ 非常持出品や備蓄品の準備

- ガラスや物品の飛散防止対策(ガラスフィルム)の貼り付けや飛び出し防止ストッパーの取り付け)
- 建物周囲の転倒防止対策(方スポンベの鎖固定やブロック塀の補強)



④ 防災訓練への参加



2つめに、地震が発生したときの行動です。

① 頭や身体の保護

- 机、椅子の下などに潜って身を守る。
- 棚や家具など倒れそうな物から離れる。
- 屋外の場合、建物等から離れ、外壁やガラス、看板等の落下物に注意する。(かばん等がある場合は、頭を保護する。)



② 車両の停車

走行中の場合、徐々に速度を落として道路左側へ停車させエンジンを切る。





① **火元等の確認・消火**

- ・使用中の火気使用器具は、直ちに消す。
- ・ブレーカーを切ってから避難する。
- ・火災が発生したら、消火器や水バケツなどを利用して消火する。

3つめに、地震の揺れが収まったときの行動です。



③ **高所・高台への避難**

海岸近くにいた場合、津波災害に備え、高台や高い建物等へ避難する。
(津波に注意する。)

③ **応急救護と救出活動**

軽いケガなどの処置や、建物倒壊・落下物による救出活動は、地域のみならず協力して行う。
(余震に十分注意すること。)



② **正しい情報の収集**

- ・テレビやラジオの報道に注意し、風評にまどわされないこと。
- ・役場や消防署、警察署からの情報や防災行政無線の放送には、たえず注意する。



平成28年4月14日の地震発生直後、鹿児島県は被災地支援のため緊急消防援助隊を派遣しました。

今回の派遣は、県下16消防本部から33隊（指揮隊1隊、消火小隊9隊、救助小隊4隊、救急小隊7隊、後方支援隊11隊、通信支援隊1隊）隊員117名が派遣され、さつま消防本部からも救急小隊1隊3名が派遣されました。

派遣決定後の主な活動は次のとおりです。

- **4月16日** 7時35分、総務省消防庁から派遣命令。11時03分、消防署を出発。14時00分、集結場所である宮原SAに鹿児島県大隊集結。15時35分、進出拠点である熊本県消防学校に到着。

- **4月17日** 後方支援隊以外の隊は宇土市へ移動。
- **4月18日** 益城町内のパトロールへ出向。20時47分、震度5弱の地震発生。全隊出動準備及び待機命令。21時25分、宇土市方面へのパトロールへ出向。（被害等無し）宿営地へ帰隊。



集結状況【宮原SA】

- **4月19日** 午前・午後に分けて美里町へ警戒出向指示。さつま町救急小隊は熊本消防学校で待機し、救急対応に当たるよう指示。
- **4月20日** 12時00分、鹿児島県大隊 第3次派遣隊が熊本県消防学校へ到着。引継ぎ実施。13時10分、熊本消防学校を引き揚げ。15時30分、宮原SAにて解散。17時50分、消防署へ帰隊。



半壊家屋【益城町内】

緊急消防援助隊に救急隊派遣
平成28年 熊本地震の被災地へ

お宅の住宅用火災警報器は大丈夫？

平成18年6月1日から新築住宅全てに、平成23年6月から既存住宅について、消防法により住宅用火災警報器（以下、「住警器」）の設置が義務付けられました。

その理由は、就寝中に発生する火災により、逃げ遅れて亡くなるケースが多いことから、就寝に使用する部屋に住警器を設置することを義務付けました。

住警器は電池式のものも多く、その電池寿命は『約10年』と言われています。今年、新築住宅に設置が義務化されてから、10年目を迎えます。

今一度、ご家庭に設置している住警器を確認し、寿命が近づいている場合は、本体ごと交換してください。確認方法は次のとおりです。

①設置年月日を確認する。

住警器本体に記載されている製造年や設置時に記入した設置年月日を確認する。

②定期的に点検する。

月に1回程度の割合で、点検ボタンを押す、又はひもを引いて正常に作動するか確認する。

住警器が正常に動作するためには、日頃の手入れと点検が大切です。

定期的に警報音が鳴り出したり、点検しても作動しない場合は、機器の故障又は電池切れの恐れがありますので、速やかに本体ごと新しい物に取り換えましょう。



新人消防士

本年4月、新しい職員5名が採用されましたので、紹介致します。（出身・氏名・年齢）

- 鹿児島市 若松 賢太郎 (27)
- 鹿児島市 植村 公亮 (27)
- 鹿児島市 末原 照之 (24)
- 薩摩川内市 湯原 康太 (23)
- 薩摩川内市 藤井 敦樹 (21)

職務の宣誓を行う新入職員



左から〔若松・植村・末原・湯原・藤井〕

気管挿管認定

伊尻成寿消防副士長が病院での厳しい実習を終え、気管挿管（口から気管へチューブを挿入する高度救命処置）ができる救急救命士に認定されました。



気管挿管訓練を行う伊尻消防副士長

『エコノミークラス症候群』ってなに??

消防一口メモ



●どんな病気なの？

「静脈血栓性血栓症」ともいい、水分などを十分に取らない状態で車や飛行機などの狭い空間に長時間同じ姿勢でいると、血液の流れが悪くなり、血液が固まりやすくなります。

その結果、血管内にできた血の固まり（血栓）が血管の中を流れ、やがて肺の血管を詰まらせてしまう病気をいい、突然死をまねくことがあります。

震災や大雨災害の際に避難所での生活が長期化すると、この病気になることがありますので、予防策が大切になってきます。

●予防するには、どうしたらいいの？

- ①ときどき、軽い体操やストレッチ運動を行う
- ②こまめに水分を摂る
- ③アルコールやカフェイン等の摂取を控える

などがあります。

もし、体の異常を感じたら、すぐに病院にて受診するか、救急車の要請を！

一ツ木分団を
白男川分団へ再編!

平成28年3月28日、一ツ木分団団員をはじめ、本部職員や地元後援会長などが出席して、『一ツ木分団の分団旗返還式』が行われました。

これは、町の再編計画に基づき一ツ木分団を宮之城西部方面隊の白男川分団に統合再編されたものです。

また、虎居分団管轄であった下川口公民会も地域性を考慮して白男川分団の管轄となりました。

分団旗の返還を受けた末吉消防団長は「これまで幾多の災害から町民の生命・財産を守ってこられた皆様方に感謝します。これから白男川分団団員として引き続き火災予防に精進していただきたい。」と労いの言葉をかけられました。

再編後	再編前
白男川分団 (一ツ木 海老川 日当瀬 下川口)	白男川分団
	一ツ木分団 (一ツ木 海老川 日当瀬)
	虎居分団 (下川口)



一ツ木分団長から末吉消防団長へ分団旗を返還

熱中症にご注意!!

さつま町内では、例年5月頃より熱中症患者が発生しており、昨年は17名の方が救急車で搬送されました。

子どもや高齢者は熱中症になりやすく、体が暑さに慣れていないこの時期は、特に注意が必要です。

また、熱中症は屋外だけでなく、住宅などの屋内でも多く発生しています。

熱中症を予防するために、こまめに水分補給をおこなう、扇風機やエアコンなどを使用して室温の調節に心がけましょう。



★普通救命講習
受講者募集★

消防署では『普通救命講習の受講者』を募集しています。

この講習は「突然意識を失い心肺停止になった人は、救急車が到着するまでの間、そばにいる家族や友人がすぐに応急手当（心肺蘇生法とAED）をすることがとても重要」とのことから、その内容について講習するものです。

【日時】随時募集しています。消防署救急係までお申込みください。

【内容】心肺蘇生法やAEDの使用方法など（3時間の講習となります。）

【その他】受講者には修了証を交付します。



火災調査ファイル Vol.5

電気火災にご注意を!!

タコ足配線と電気コードのショート

電化製品の普及に伴い、つい1つのコンセントに多くのプラグを差し込んでしまうのが「タコ足配線」ですが、そこには火災の危険が潜んでいます。

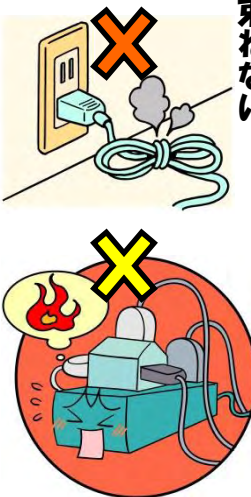
その原因は、コンセントの電気許容範囲を超えて発火してしまうからです。

また、電気コードがショートすることにより火災に至る場合もあります。

電気コードを折り曲げ、束ねて使用したり、家具等でコードを踏んだまま使用することで、気づかないうちに一部断線してショートし、火災に至ります。

このようなことを起こさないために、次の点に注意しましょう!

- ◆ タコ足配線をしない
- ◆ タップを使用する場合、電気容量を守る
- ◆ 家具等でコードを踏まない
- ◆ コードを釘等に巻きつけて固定しない
- ◆ コードは束ねない



防火ポスターコンクール 入賞者決定!



優秀賞の内村さんの作品



- ※学校・学年は表彰当時
- 柘野小学校
- 学校特別賞**
東條 舞 (柘野小6年)
- 消防長賞**
山口 若葉 (山崎中3年)
- 入選**
宮内 敬史朗 (中津川小1年)
寺田 志乃 (鶴田小2年)
栗野 愛彩 (流水小3年)
山崎 壮祐 (求名小4年)
小原 光莉 (流水小6年)
山口 若葉 (山崎中3年)
- 防火賞**
内村 柘斗 (宮之城小2年)
- 優秀賞**
外越 由美花 (盈進小5年)
古町 紗菜 (求名小6年)
- 今回は町内の小・中学校から86点の応募があり、厳正な審査の結果、最優秀賞に中津川小学校5年の宮脇咲久也さんの作品が選ばれました。(※表紙掲載)
- その他の入賞者は次のとおりです。おめでとうございます!

消防ほっと写真館



救助訓練 (ロープブリッジ渡過)



消防訓練 (放水訓練)
表情は真剣そのもの!!

【宮之城小 職場体験学習】
2016. 5. 10~12



消火放水を体験をしました
消防フェスタ (秋季火災予防イベント)
2015. 11. 1



署員の説明を熱心に聞き入る消防団員
【消防操法合同訓練】
2016. 5. 15



救急訓練 (心肺蘇生法とAED)